

**平成26年度
北九州市立図書館の運営に関する評価**

平成28年1月
北九州市立中央図書館

北九州市立図書館の評価

I 基本目標

基本目標

北九州市立図書館は、教育と文化の発展に寄与することを目的とし、市民にとってより身近な図書館を目指し、その利用を促すことを目標としています。

II 基本指標と達成状況

基本指標と目標

【指標】	【目標】
①貸出者数	対前年度比増
②貸出冊数	対前年度比増
③来館者数	対前年度比増



達成状況

	【平成25年度】		【平成26年度】		【達成状況】
①貸出者数	1,008,697人	→	1,038,007人		対前年度 2.9%増
②貸出冊数	3,893,863冊	→	3,904,740冊		対前年度 0.3%増
③来館者数	2,578,298人	→	2,762,584人		対前年度 7.1%増

III 総合評価

総合評価

- 貸出者数・貸出冊数・来館者数は、前年度に比べ、それぞれ2.9%、0.3%、7.1%増加している。
 - 施策評価では、59項目のうち「順調である」以上の評価が53項目あり、約88%を占めている。
 - 利用者アンケートにおいても、「対応の親切さ」、「説明の分かりやすさ」など6つの項目の満足度について、それぞれ利用者の80%から90%超の方に「満足」以上の評価をいただいている。
- 以上のことから、図書館全体の評価は順調であると考えます。

外部評価

施策の具体的取り組みについては、全体的に順調であると評価でき、図書館の運営がうまく行われている。基本指標及び利用者アンケートの結果が良好であることも評価できる。学校や市民センターなど他施設との連携を更に進めてもらうとともに、図書館の人材育成に努めてもらいたい。

IV 施策評価

北九州市立図書館では、「これからの図書館のあり方」の中に示された5つの視点に立った取り組みを行っています。その具体的施策59項目の取組状況について、下記の基準を設けて評価を行います。

<評価の基準>

- A** 大変順調である。
- B** 順調である。
- C** やや遅れている。
- D** 遅れている。

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価
<p>***** 図書館ネットワーク (連携)の構築 ～学校、行政、各種団体等との連携を目指して～ *****</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p style="text-align: center; margin: 0;">内部評価</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em; margin: 5px 0;">B</p> </div>	ネットワーク(連携)統括機能の充実	1 大学図書館等との連携	北九州市立大学、九州国際大学との連携	○平成14年8月に北九州市立大学と、平成14年9月に九州国際大学と、それぞれ連携協定を締結し、相互利用を進めている。	B
		2 図書館以外の図書施設との連携	保健医療福祉情報センター、ムーブ図書室との連携	○ムーブ図書・情報室及び北九州学術研究都市学術情報センター、保健医療福祉情報センターと図書資料の相互貸借、図書館情報システムの参加、図書資料の返却フリーなどの連携を進めている。	B
		3 ひまわり文庫の充実	配本図書の充実 地元との情報交換の強化	○平成26年度末の設置数は129か所。 ・配本冊数は約8万1千冊。(1箇所平均約631冊) ・年間の貸出者数は30,275人、貸出冊数は64,485冊。	B
		4 図書館の広域利用	苅田町との相互利用	○苅田町との相互利用については、これまで調整してきたが、未実施となっている。 ※福岡県北東部の15市町及び下関市とは、相互利用に取り組んでいる。	D
		5 ネットワーク(連携)統括機能の充実	市内図書館(市立図書館以外の図書館を含む)の統括を中央図書館で実施	○平成24年4月、学校ネットワークを活用し、図書館情報システムの更新を行った。 ・ムーブ図書室・情報室、北九州学術研究都市学術情報センター、保健医療福祉情報センターと図書館情報システムの共有を図っている。 ○平成26年4月から保健医療福祉情報センターも返却フリーを始めた。	C
	学校等との連携による読書活動の推進	6 (新)調べ学習用「調べ方マニュアル」の作成	小学校、中学校と連携して、それぞれのレベルに応じた、調べ学習用の「調べ方(資料さがし)マニュアル」を作成、ホームページで公開	○平成25年3月、図書館ホームページに「子どものページ」を作成・登載し、その中で「図書館でしらべものをする時」を掲載している。	B
		7 (新)学校向けニュースレターの発行の検討	小・中・高校向けのニュースレターを発行、児童生徒からの意見等を図書館運営に生かす仕組みの検討	○地区図書館や分館で毎月1回「図書館だより」を作成し、近隣の小・中学校等に配付している。	B
		8 学校向け団体貸出の拡充	小・中・高校への団体貸出における貸出冊数の拡大・貸出期間の延長等の拡充	○学校向け団体貸出は、貸出者数が899人から1,196人、貸出冊数が8,709冊から8,984冊に増加した。	B
		9 学校貸出図書セットの拡充	学校貸出図書セットにおけるセット数・蔵書冊数の拡充	○中央図書館で学校貸出図書セットの拡充に取り組んでいる。 ・平成26年度は42セットから49セットに拡充、貸出実績は36件から72件に倍増した。	A

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価
		10(新)図書館司書やボランティアの幼稚園、学校等への派遣	幼稚園、保育所、学校、社会教育団体等との連携を深め、図書館司書やボランティアなどの図書館の人材を派遣し、調べ学習、親子読書の推進、読み聞かせ、講座等を支援する。	○中央図書館、地区図書館、分館で、幼稚園、保育所、小学校等からの要請に応じて、図書館司書や読み聞かせボランティアの派遣に取り組んでいる。 ・図書館司書の派遣(11館90件) ・読み聞かせボランティアの派遣(5館100件)	B

【内部評価の考え方】

市内の大学図書館や図書施設との連携に取り組んでいる。また、市立図書館以外の図書施設すべてが図書資料の返却フリーを行っている。他都市の図書館が利用できる広域利用については、苅田町との相互利用は未実施だが、福岡県北東部地域や下関市と相互利用に取り組み、図書館利用者に広域利用の周知を図っている。

また、学校との連携については、読み聞かせボランティアや図書館司書の派遣などに加え、学校向けの団体貸出の利用が増加し、貸出図書セットの利用が倍増するなど、学校教育への支援の強化を図るとともに子どもの読書活動推進に努めている。

以上のことから順調と判断した。

【外部評価】

大学図書館・図書施設との連携やひわまり文庫を始め、ほとんどの取組項目が順調に実施されている。特に学校貸出図書セットについては、セット数を拡充し、貸出実績も増加しており、多いに評価できる。

また、学校向けニュースレターなどを利用した図書館から学校や子どもへのアプローチや、市民センター等の施設との連携を更に進めてもらいたい。

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価	
<p>*****</p> <p>市民の学びに役立つ図書館</p> <p>～市民の暮らしやまちづくり役に役立つ、生涯学習拠点機能の充実を目指して～</p> <p>*****</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center; background-color: #ffff00;">内部評価</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">B</p> </div>	レファレンス機能の強化	11 (新) 相談内容のデータベース化	実際の相談内容の中で、市民の調査研究に有用とおもわれるものをピックアップして、データベース化するとともにホームページで公開	<p>○平成24年3月に、中央図書館でレファレンス事例集を発行。</p> <p>・昭和60年3月、平成16年3月にもレファレンス事例集を発行。</p> <p>○国立国会図書館の「レファレンス協同データベース事業」で、平成17年4月以降428件を一般公開し、アクセス件数が多いことから、国立国会図書館より平成23年以降感謝状を貰っている。</p>	B	
		12 (新) 調べ方マニュアルの作成	ビジネス、医療、教育、子育て等について、市民が自分で調べる際の手引きとなる「調べ方(資料さがし)マニュアル」の作成、ホームページでの公開	<p>○平成24年3月に、中央図書館が発行したレファレンス事例集の中に、調べ方の事例を掲載した。</p> <p>・八幡図書館が郷土に関連した質問とその回答、参考資料を八幡図書館独自ホームページで公開している。</p> <p>○小中学生向けには調べ学習をする際のガイドを掲載した。</p>	B	
		13 (新) 郷土資料のデジタル化の検討	劣化しやすい郷土資料を、必要に応じてデジタルデータ化の検討	<p>○平成21年度、中央図書館で国庫補助を受けて郷土資料(門司新報、福岡県布達集、小笠原文庫、古地図、写真等)をデジタル化した。</p> <p>・マイクロフィルム等をCD131枚にデジタル化した。</p>	B	
		14 レファレンス用図書資料の充実	多様化・複雑化する市民のニーズに応えられるよう、レファレンス用図書資料の充実	<p>○中央図書館、地区図書館、分館で、市民のニーズに応えられるよう、レファレンス用図書の充実に努めている(各種辞典や図鑑などの買い替えなど)。</p>	B	
		15 レファレンス担当職員の能力向上	市内全図書館のレファレンス担当職員を対象に、演習を中心とするレファレンス研修を体系的に行い、職員の能力向上を図る。	<p>○中央図書館で、平成21年度、平成22年度に市内全図書館職員を対象に、レファレンス研修を実施した。</p> <p>○福岡県立図書館等主催の研修に、中央図書館や各図書館の職員が参加している。</p>	B	
		特色ある図書館づくり	16 (新) 各図書館独自のホームページの作成	各図書館独自のホームページを作成し、それぞれの特色ある取り組み・情報などを市民に発信	<p>○平成24年4月、図書館情報システムの更新にあわせ、市立図書館のホームページをリニューアルした。</p> <p>○平成24年7月、八幡西図書館が開館にあわせて独自のホームページを作成した。</p> <p>○平成25年6月、八幡図書館において独自のホームページを作成した。</p>	B
			17 郷土資料の充実	各図書館における地域の歴史・特色を生かした郷土資料の充実に努める。	<p>○中央図書館、地区図書館、分館で、地域の歴史・特色を生かして郷土資料の充実に取り組んでいる。例えば、市史や市内企業の社史等の配架のほか、地元出身の作家コーナーを設けている。</p> <p>○平成26年3月移転・開館の戸畑図書館に郷土資料室、宗左近記念室を設置した。</p>	B

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価
		18 各種講座の開催	ビジネス、医療、文学歴史等の幅広い分野について、指定管理者としての特徴を生かした講座の開催	○中央図書館、地区図書館、分館で、それぞれの特徴を生かして各種講座を開催している(郷土史講座、医療情報講座、健康講座、子ども向け実験教室、韓国語講座など)。	B
		19 特色ある図書閲覧コーナーづくり	各図書館の施設(構造)の特徴を生かして、市民が利用しやすかつ特色のある閲覧コーナーづくりに努める。	○中央図書館、地区図書館、分館で、特色あるコーナーづくりに取り組んでいる(映画・図書館戦争コーナー、ビジネス支援コーナー、地元出身作家コーナー、絵本コーナーなど)。	B
		20 IT機能の充実、活用(既存資料のデータベース化等)	CD-ROM資料等の充実 既存図書館資料等の電子化、データベース化、新しい電子資料の収集・提供	○中央図書館で日刊工業新聞縮刷版のCD-ROM、西日本新聞(九州日報大正編)のCD-ROMを購入した。 ○国立国会図書館デジタル化資料の閲覧・複写サービス事業を平成26年度に導入した。	B
	多様な生涯学習機会の提供	21(新) 市民団体等の講座等への出張図書館の推進(団体貸出しの拡充)	市民団体、NPO、民間事業者等が主催の講座、セミナー等の会場で、要請に応じ、講座に関連する図書の展示や貸出の実施	○地区図書館、分館で、絵本カーニバルへの図書貸出のほか、郷土史会や特別支援学校等への団体貸出を行った。	B
		22(新) 図書館の達人講座(図書館活用講座)	ビジネス情報や生活情報の収集、調査研究等のために図書館を利用する市民に向けて、図書館を最大限に活用するためのノウハウを伝える講座を開催	○図書館員体験や図書館活用についての出前講座を実施した。 ○子ども司書養成講座や図書館ボランティア養成講座等で、図書館体験を実施した。	B
		23 学習活動の場、設備、資料等の提供	市民の学習活動を推進するため、図書館の施設、設備等を提供	○中央図書館、地区図書館、分館で、郷土史会、読書会等の会議室の貸出や資料の提供などの支援に取り組んでいる。	B
		24 講座、研究会、読書会、映写会等の開催	市民の生涯学習を支援するため、関連機関等との連携を図りながら、ビジネス、医療、文学、歴史等に関する講座や研究会、読書会等を開催	○中央図書館、地区図書館、分館で、市民の生涯学習活動を支援している。 ・ボランティア養成講座 5回 140人 ・講演会 5館11回 490人 ・講座 11館159回 4,737人 ・読書会 11館229回 1,833人 ・読み聞かせ、おはなし会 16館 1,088回 25,184人 ・映画会 6館53回 1,109人	B
	社会教育で学んだ成果の活用と提供	25(新) 学習成果発表の場として図書館利用の検討	生涯学習センター、市民センターなどの施設との役割分担をしながら、学習成果の発表の場としての図書館資料を活用した図書館利用の検討	○中央図書館、地区図書館、分館で、学校図書館活動状況の展示や、朗読教室の発表会、市民センター活動クラブの作品展示等を行った。	B

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価
		26(新)学習成果のまとめ方(資料作成)への助言、援助	市民の学習成果の発表等をするため、資料のまとめ方(資料作成)等について助言を行うとともに、当該資料を図書館の地域資料として活用	○地区図書館、分館で、郷土史会の資料作成への助言、調べ学習のための資料提供や助言等を行った。	B

【内部評価の考え方】

市民からの様々なニーズ・課題に対し、その解決を支援する相談・情報提供の機能強化に取り組んでおり、また、レファレンス機能の強化に向け、レファレンス事例集や大人・子どもそれぞれのレファレンス用図書の実用化に取り組んでいる。また、国立国会図書館デジタル化資料の閲覧・複写サービスを導入し、貴重な資料をより手軽に提供できるようになった。
以上のことから順調と判断した。

【外部評価】

調べ方マニュアルの作成や、図書館ホームページの実用化のほか、国立国会図書館デジタル化資料の閲覧・複写サービスの導入等により、市民からの問い合わせも増え、レファレンスの取り組みが向上していることは評価できる。
今後は、生涯学習拠点である図書館と生涯学習センターや市民センターとの連携が更に進み、協働での取り組みの実用化に期待したい。

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価
<p>***** 次世代の育成を支援 する図書館</p> <p>～子育て、教育支援 図書館としての機能 の充実を目指して～</p> <p>*****</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p style="background-color: yellow; margin: 0;">内部評価</p> <p style="font-size: 2em; margin: 0;">B</p> </div>	子育て支援、家庭教育支援	27 (新)子育て・家庭教育支援用図書資料の充実	図書館法改正(「家庭教育の向上に資する」)を踏まえ、子育て、家庭教育関連図書資料の充実	○地区図書館、分館で、子育て支援コーナーを設け、育児書、食育関連図書、教育分野の図書等の購入に努めている。	B
		図書館司書やボランティアの幼稚園、学校等への派遣【再掲】	幼稚園、保育所、学校、社会教育団体等との連携を深め、図書館司書やボランティアなどの図書館の人材を派遣し、調べ学習、親子読書の推進、読み聞かせ、講座等を支援する。	/	
		28 (新)家読(うちどく)の推進	家庭教育向上の基礎となる、親子のコミュニケーションづくりの手段の一つとして家読を推進するため、推薦図書に関する情報提供やコーナーの設置などを行う。	○市内全図書館で、「うちどくコーナー」を設け、「うちどくガイドブック」による情報提供や家読に適したおすすめ図書の紹介・展示に取り組んでいる。	B
		29 読み聞かせ会等の実施	読み聞かせ会等を実施し、子どもが読書に親しむ環境づくりを行う。	○地区図書館や分館で、読み聞かせ会、おはなし会等を実施している。 ・市内の読み聞かせボランティア団体数 36団体 ・読み聞かせ、おはなし会 16館 1,088回 25,184人	B
		30 (新)子ども用トイレや授乳室の設置	子ども連れで図書館を利用しやすい環境の整備	○市内図書館の施設で授乳やオムツ替えができる環境整備に取り組んでいる。 ○八幡西図書館と戸畑図書館に子ども用トイレを設置。	B
	学習活動の支援	調べ学習用「調べ方マニュアル」の作成【再掲】	小学校、中学校と連携して、それぞれのレベルに応じた、調べ学習用の「調べ方(資料さがし)マニュアル」を作成、ホームページで公開	/	
		31 (新)グループ学習室の設置	図書館資料を用いてグループ学習を行うグループ用に専用の学習室を図書館整備に合わせて設置し、自由に討論などできる環境を整備	○八幡西図書館にグループ学習室を2室設置。	B
		32 調べ学習用図書資料の充実	学校の要望なども取り入れながら、各年代(小・中・高)に応じた調べ学習用図書資料の充実	○地区図書館、分館で、調べ学習に役立つ参考図書の充実に取り組んでいる。	B

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価
		図書館司書やボランティアの幼稚園、学校等への派遣【再掲】	幼稚園、保育所、学校、社会教育団体等との連携を深め、図書館司書やボランティアなどの図書館の人材を派遣し、調べ学習、親子読書の推進、読み聞かせ、講座等を支援する。		
		学校向け団体貸出の拡充【再掲】	小・中・高校への団体貸出の貸出冊数の拡大・貸出期間の延長等の拡充		
	ヤングアダルト(中高生)機能の充実	調べ学習用「調べ方マニュアル」の作成【再掲】	小学校、中学校と連携して、それぞれのレベルに応じた、調べ学習用の「調べ方(資料さがし)マニュアル」を作成、ホームページで公開		
		33 (新)ヤングアダルト(中高校生)と協働した取組みの推進	ヤングアダルト向け図書の選書に際して、中高校生の意見を反映させる仕組みづくりや中高校生と協働したイベントの企画・開催を推進	<p>○地区館、分館で、中高生がおすすめ本紹介ポップの作成・展示を行った。</p> <p>○平成25年12月から、中央図書館の企画展示コーナーで、市立小中学校の図書館活動に関する展示を開始した。</p> <p>○平成26年度は中高生向けの講座(ライトノベルズ講座など)を開催した。</p>	B
		34 (新)ヤングアダルト図書館サポーターの募集	図書館のサポートやPR、図書館運営に関する提案などを行うヤングアダルト図書館サポーターの募集	○中央図書館で、小・中学生を対象に子ども司書養成講座を開催し、図書館司書の体験学習を実施している。	C
		35 ヤングアダルト向け図書資料の充実	ヤングアダルトの意見なども取り入れながら、図書資料の充実	○中央図書館、地区図書館、分館で、ヤングアダルトコーナーを設置し、図書の充実に取り組んでいる。	B

【内部評価の考え方】

子育てや家庭教育の支援については、関連図書資料の充実や「うちどくコーナー」による情報提供、読み聞かせ会など充実に努めている。また、施設面に関しても、図書館の整備にあわせ子ども用トイレの設置を進めている。学習活動の支援では、参考図書の充実に努め、図書館の整備にあわせセミナー室の設置を進めている。ヤングアダルト機能の充実では、ヤングアダルトと協働した取り組みとしておすすめ本紹介ポップの作成や中高生向け講座の実施等、ヤングアダルト向けの図書の充実に取り組んでいる。以上のことから順調と判断した。

【外部評価】

読み聞かせ会やおはなし会などの事業の充実に努めている点は高く評価できる。また、こうした活動を図書館が支援するための人材育成に努めてもらいたい。ただし、中高生の図書館の利用が少ないため、新たな取り組みも含め、今後ヤングアダルトに関連した事業をより充実させ進めてもらいたい。

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価
<p>***** 誰もが使いやすく、 情報や人が交流する 図書館 ～電子情報など多種の 情報が集まり、誰もが 交流する機能の充実を 目指して～ *****</p>	パソコンの整備	36 OPAC端末(館内利用者用端末)の増設	OPAC(館内利用者用予約端末)を増設	○平成24年7月開館の八幡西図書館に12台設置し、市内全図書館では46台となった。 ○平成26年3月移転・開館の戸畑図書館に端末の配置見直しにより、2台追加した。	A
		37(新) パソコンルームの設置	地区館以上に図書館整備に合わせてパソコンを数台まとめておける専用スペースを確保し、プリンターも設置	○中央図書館にパソコン持込席コーナー(5席)を設置し、平成24年7月開館の八幡西図書館にパソコン専用スペース(22台)と持込パソコン活用スペースを設置した。 ○平成26年3月移転・開館の戸畑図書館に端末の配置見直しによりパソコン専用スペースに1台追加した。	B
	ネットワークへの接続	38(新) 公衆無線LANの整備	利用者が図書館に持ち込んだパソコンをインターネットに接続できる環境を整備	○平成24年7月開館の八幡西図書館に、市立図書館で初めて公衆無線LANを設置した。	B
	商用データベースの活用	39(新) オンライン商用データベース(新聞記事、判例集、官報、企業情報など)の導入	オンライン商用データベースが閲覧できる端末を設置し、複数の商用データベース(新聞記事、判例集、官報、企業・経営情報、事典など)を導入することで、図書館職員のレファレンス(利用相談)ツールとして役立つほか、利用者自身が情報活用に関心を得られる場を提供	○平成23年9月、中央図書館でオンライン商用データベースを1種類から3種類に拡充した。 ○平成24年7月開館の八幡西図書館に11種類の商用データベースを導入した。	B
	図書館ホームページ等の活用による情報発信	40(新) ホームページを活用した図書館情報の発信の検討	図書館独自のホームページを作成し、新着図書情報や行事案内に加え、おすすめ本の紹介、エッセイやコラム、今日の一冊としたランダムな本の紹介、各館のフロア(書架配置)図など、様々な情報を掲載し、魅力ある図書館情報の発信を検討	○平成24年4月、図書館情報システムの更新にあわせ、市立図書館のホームページをリニューアルした。 ・平成26年度の図書館ホームページへのアクセス件数は395,088件で、平成25年度372,802件に比べ22,286件(6.0%)増加した。	B
		41(新) 子ども向けホームページの開設	子どもを対象としたホームページの開設を検討	○平成25年3月、図書館ホームページに子ども向けのホームページを開設した。	A
		42(新) メールマガジンの配信の検討	登録された利用者のパソコンや携帯電話に新刊案内の配信を検討	○平成24年4月に図書館情報システムを更新し、新刊案内や蔵書の予約状況等の情報は、誰でも閲覧できる状況となっている。	C
	時代に即した各種サービスの充実	43(新) CD・DVDの貸出	民間事業者への影響なども勘案しながらCD・DVDの貸出	○八幡西図書館と戸畑図書館で、CD、DVDの視聴覚資料の貸出に取り組んでいる。 ・八幡西図書館 視聴覚資料数は4,440タイトル 貸出実績は50,371点 ・戸畑図書館 視聴覚資料数は3,176タイトル 貸出実績は38,372点	B

内部評価

B

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価
		相談内容のデータベース化【再掲】	実際の相談内容の中で、市民の調査研究に有用とおもわれるものをピックアップして、データベース化するとともにホームページで公開		
		インターネット、商用データベース等の充実【再掲】	インターネットや商用データベース等の電子資料の充実を図り、図書などの紙媒体と電子資料を融合させたハイブリッド図書館の推進		
		44 成人へのサービス(就職、転職、能力開発、実用書等の充実)	就職・転職・職業能力開発・日常の仕事等、実務に役立つ実用書の充実	○地区図書館、分館で、ビジネス支援コーナーを設置したり、実用書等の充実に取り組んでいる。	B
	障害者へのサービス	45 (新)対面朗読(視覚障害者向けサービス)	点字図書館やボランティアと連携しながら、視覚障害者への対面朗読を行う。	○八幡西図書館と戸畑図書館に、対面朗読室を設置。	B
		46 (新)CDブックの収集・貸出(視覚障害者、一般向けサービス)	視覚障害者ととも一般の利用にも供するCDブックの収集・貸出	○現在、点字図書館で視覚障害者向けにCDブックの貸出を実施中。中央図書館、地区図書館で、点字図書蔵書目録を設置し、貸出申込の受付代行を行っている。	C
		47 手話や字幕入り映像資料の整備充実(聴覚障害者向けサービス)	聴覚障害者用に手話や字幕入り映像資料の整備を推進	○中央図書館内の視聴覚センターで手話や字幕入り映像資料の充実に取り組んでいる。	C
		48 関係機関・団体との連携	障害者団体等の意見を取り入れた、より利用しやすい図書館づくりの推進	○平成22年7月、中央図書館、地区図書館に点字図書蔵書目録を設置し、貸出申込の受付代行を開始した。 ○八幡西図書館で、地元の地域活性化団体などと共同イベントを実施した。 ○戸畑図書館で、北九州ESD協議会と共催で環境講座を実施した。	B
		49 図書館バリアフリー化の推進(ユニバーサルデザインの観点)	ユニバーサルデザインの導入という観点をふまえて、より一層のバリアフリー化を推進	○中央図書館に屋外エレベーターを設置(平成17年3月) ○門司図書館にエレベーター、多目的トイレを設置(平成19年3月) ○八幡図書館にエレベーター、多目的トイレを設置(平成20年11月) ○戸畑図書館に多目的トイレを設置(平成21年1月) ○八幡図書館に身障者用駐車スペースを設置(平成23年9月) ○門司図書館に駐車スペース3台分を増設(平成24年7月) ○バリアフリー化された八幡西図書館開館(平成24年7月) ○バリアフリー化された戸畑図書館移転・開館(平成26年3月)	B

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価
	交流スペースの設置	50 リフレッシュ(談話)スペースの整備(利用者がくつろげる場所の提供)	図書館整備に合わせて利用者がくつろげる場所を提供	○八幡西図書館と戸畑図書館に、談話ができるロビーとカフェテリアを設置した。 ○中央図書館のカフェテリア設置に向けた取り組みを実施している。	B
	図書館職員の意識改革	51(新)リカレント教育(再研修)の実施	図書館資料が活字情報に加え、電子資料が発達してきたことで、図書館職員にも情報リテラシー(情報を活用する創造的能力)が求められるため、積極的な意識改革を促すための職員研修の充実を推進	○指定管理者が運営している地区図書館、分館においても独自に職員研修に取り組んでいる。 ○福岡県立図書館等主催の研修に、中央図書館や各図書館の職員が参加している。	B
	利用者の視点に立った弾力的運営、評価	52 返却フリー(借りた図書はどの図書館でも返却可能)	借りた本をどこの図書館でも返却できるシステムの構築	○平成22年8月、返却フリー制度を導入した。 ・市立図書館17館と北九州学術研究都市学術情報センター(一般図書室)、ムーブ図書・情報室、平成26年度から保健医療福祉情報センターも加わり計20施設が対象。	A
		53 インターネット予約(インターネットでの貸出予約)	来館とFAXで受け付けていた予約をインターネットでもできるようにする。	○平成24年4月、図書館情報システムの更新にあわせ、インターネット予約を実施した。 ・平成26年度の予約件数は473,867件で、うちインターネット予約件数は286,047件。全件数の約60%となっている。 ○平成25年9月、利用者が図書の順番予約を設定できるサービスを実施した。	A
		54(新)運営に関する評価制度の導入	図書館の運営に関する評価を行い、公表するとともに改善を行う。	○平成25年度から図書館評価制度を導入することとした。	B

【内部評価の考え方】

図書や電子資料を組み合わせた情報提供を行うとともに、情報機器の増設やパソコンが利用しやすい環境整備に努めた。また、八幡西図書館及び戸畑図書館では視聴覚資料の貸出サービスを行い、保健医療福祉情報センターでも返却フリーを始めた。障害者の方のサービスについては、図書館の整備にあわせて施設全体のバリアフリー化を行い、既存の図書館においても施設のバリアフリー化に努めている。
以上のことから順調と判断した。

【外部評価】

インターネット予約の利便性が利用者に認知され、利用件数が増加していることは評価できる。また、子ども向けホームページなどが小学生にとって図書館を身近に感じられ、図書館ホームページへのアクセス件数も増加しており、関連情報の提供が進んでいる。さらに、スマートフォンやタブレットなどの携帯情報機器にも対応した使いやすい情報提供をお願いしたい。
一方で、情報が多すぎ取捨選択が難しいことや、パソコン等のデジタル機器を使用する人とならない人の二極化が進むなど、情報格差が社会では生じていることから、障害者や高齢者などに配慮した情報提供の取組みにも期待したい。

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価
<p>*****</p> <p>市民参画型図書館</p> <p>～市民やボランティアの参画できる機能の充実を目指して～</p> <p>*****</p>	市民の企画による行事の開催	55 (新) 図書館行事アイデア募集事業の推進	図書館を拠点に活動する市民グループなどから図書館行事のアイデアを募集し、協働で実施	○地区図書館、分館で、地元郷土史会や読書会、市民朗読グループなどと協力して、講演会や教養講座などを開催した。	B
		ヤングアダルト(中高生)と協働した取組みの推進 【再掲】	ヤングアダルト向け図書を選書に際して、中高生生の意見を反映させる仕組みづくりや中・高校生と協働したイベントの企画・開催を推進		
	ボランティア活動の参画支援と活用	56 (新) 多様なボランティアの活用(パソコン操作、子育て相談等)	読書ボランティア(読み聞かせなど)や図書館ボランティア(書架整理など)のみならず、関係部局との連携を図り、対面朗読、パソコン操作、子育て相談など幅広い分野のボランティアを活用した図書館運営を推進	○地区図書館、分館で、折り紙教室、工作教室、読み聞かせ、コンサートなど多様な講座等をボランティアの協力を得て開催した。	B
		57 (新) ボランティアバンクの検討	読み聞かせ等を希望する市民に対し、必要とするボランティア情報を迅速かつ的確に提供するため、ボランティアバンクづくりを検討	○平成26年2月に、市立図書館で活動している読み聞かせボランティア団体を対象に、読み聞かせボランティアバンクを設置した。 ・登録団体 32団体(292人)と12個人。	B
		58 読書ボランティア、図書館ボランティアの育成・活用	図書館や地域で活動する読書ボランティアや図書館で活動する図書館ボランティアの一層の育成・活用	○中央図書館で図書館ボランティア養成講座(年2回計60人)、読み聞かせボランティア養成講座(初心者コース年2回計60人と経験者コース年1回30人)を開催し、ボランティアの育成、活用に取り組んでいる。	B
図書館協議会の充実	59 時代に即した図書館づくりの推進	多様化する図書館ニーズに対応し、効率的・効果的な図書館サービスが展開できるよう、適宜、現状把握や検証を行うなど、さらなる図書館協議会の充実に努める。	○返却フリーやインターネット予約、図書館評価制度の導入等を進めるほか、他都市の情報収集を行い、効率的、効果的な図書館サービスの向上に取り組んでいる。	B	

内部評価

B

【内部評価の考え方】

市民参画型の図書館づくりに取り組んでおり、郷土史会等との連携による行事開催や、各種ボランティアの協力による行事開催に取り組んでいる。
読み聞かせボランティアバンクは平成26年2月に設置し、ボランティアの人材育成・活用に取り組んでいる。
以上のことから順調と判断した。

【外部評価】

図書館ボランティア養成講座や読み聞かせボランティア養成講座の開催、読み聞かせボランティアバンクの設置など、ボランティアの育成、活用に取り組んでおり、バンク登録者も増加し、多くに市民が図書館のボランティアとして活躍され、全体的に評価できる。
今後は、ボランティア養成講座を拡充していき、更に実際の活動につなげていく取り組みを充実させてほしい。